

## 第6章 ローゼンバーグ博士の指摘

---

2001年12月10日に公表されたローゼンバーグ博士は論文<sup>1</sup>で、FBIが意図的に捜査を遅らせているのではないかと指摘した。ローゼンバーグ博士は「生物・化学兵器に関する科学者の会」を1989年に立ち上げた人物で、クリントン大統領の生物兵器アドバイザーを務めていた。実際ローゼンバーグ博士の脳裏には犯人の名前が浮かんでいたのかもしれない。その論文の要点を抄訳したが、次章のFBI報告と照合するとFBI報告の不自然さが浮かび上がって来る。

### 第一節 炭疽菌の種類と兵器化

手紙に同封されていた炭疽菌はアリゾナ州立大学のデータベースと比較して、Ames株であることがわかった。2000年に発表されたM. Hugh-Jonesほかの論文によれば、Ames株は、1969年以前に米国の生物兵器プログラムの中心的存在であった。(生物兵器禁止条約は1972年に書名が始まり、1975年に発効した)。2001年当時はワクチンを試験する目的で、米国生物兵器防御プログラムに使われていた。

少なくとも4種類のAmes株変種が存在していて、すべてUSAMRIIDの管理下にある。それらはアイオワ州エイメスの研究所に隔離されていて、研究や配布に使われてはいない。Ames株に関する混乱はUSAMRIIDによって払拭されることは間違いないが、USAMRIIDは曖昧にしている。

#### ● 兵器化

ダッシュル上院議員に送られたような非常に細かな微粒子に加工された炭疽菌を「兵器化」された菌であるという。米国で加工された炭疽菌のサイズは、1.5から3ミクロンである。帯電を防ぐ加工がしてある為、物に付着せず空中に漂う。手紙に同封された炭疽菌の純度と密度（1グラム当たりの芽胞の数は1兆であった）は米国で加工したものと考えられる。

兵器化プロセスの発明者であるビル・パトリックによればこのプロセスで作られた兵器化炭疽菌には化学品がまざっている。陸軍病理学研究所（ワシントン DC）がエネルギー分散型 X 線顕微鏡を使って炭疽菌を調べた所いくつかの化学品の痕跡が見つかった。

また、上院議員あての手紙に入っていた炭疽菌は特殊な形のシリカを含んでいて、イラクなどで製造された炭疽菌の特徴であるベントナイトは含まれていなかった。

すべての手紙でたぶん同じ炭疽菌が使われたのだろう。9月18日にNBCとNY Postに使われた炭疽菌が固まっていたのは、配送中に濡れたことが原因ではないか  
この結論は、フロリダの攻撃で使われた菌とダッシュル上院議員に送られた菌が似ていることから妥当であるといえる。

- 製造方法

現在アリゾナ州立大学で炭疽菌遺伝子の変化の解析が行われているが、その結果が出れば、手紙に使われた炭疽菌が、何回複製されたか、国のプログラムのような大規模施設で作られた物か、あるいはテロリストが小規模に作ったものかがはっきりするだろう。

フロリダで使われた炭疽菌と Ames 菌の遺伝子解析が行われていると伝えられているが、その作業は NPO の遺伝子研究所が、政府との契約により実施している。しかし、その結果はまだ公にされていない。

- 菌の出所

当初予想したよりも少ない20研究所が Ames 株を USAMRIID から譲り受けていた。しかし、その中で炭疽菌を兵器化する能力を持つ研究所は、多分4研究所にすぎない。

## 第二節 犯人像

犯人は炭疽菌ワクチンを事件の直前に受けているはずである。炭疽菌を手紙に詰める操作は、非常に危険である。一方、ワクチンは市場にはほとんど無く入手が難しい。したがってワクチンを辿ってゆけば犯人に行き着く。

同時多発テロが起きた9月11日と、炭疽菌入りの2通の手紙が発送された9月18日の間はわずか1週間である。これは、9月11日以前に犯人が炭疽菌を入手していたことを意味する。犯人は9/11の攻撃を前もって知っていたのだろうか？

国防省長官のラムズフェルト氏は、炭疽菌攻撃がアルカエダの仕業では無く、たぶん国内の人物が犯人だろうと言っている。

国家安全保証担当大統領補佐官ジョン・ボルトン氏は、2001年11月9日にジュネーブで開かれた生物兵器条約会議の冒頭で、「現時点では炭疽菌による攻撃が、誰から行われたか公表できる状態にない。」と述べた。しかし、米国政府は炭疽菌がどこから来たかは、わかっているに違いない。

2001年10月1日のニューヨークタイムズ紙は、連邦政府の捜査を行なっている捜査官の発言として、政府内部の人物または、その人物と関連を持つ人であるという推測が最も近い、と述べている。

シカゴトリビューンは10月27日付けで、上院の諜報委員会議長であるボブグラハム氏は、10月末にどこの研究所が出どころであるか相当の確率で判定できるが、この判定分析には相当時間がかかると言ったことを報じている。

ニューヨークタイムズ（12月1日付け）は、連邦政府捜査当局に近い人物の発言として、政府内部の人物または、その人物に近い人物の関与を予想した。同じく炭疽菌を扱ったのは軍の研究所に加え政府の研究所および契約研究所の可能性もあると述べた。

### 第三節 最も可能性がある仮説

- 犯人は兵器化された炭疽菌を入手することが可能な米国の細菌学者で、米国の研究所または契約研究所に所属している。この人物はトレントンあるいはその近傍に住んでいるのでは無くワシントン特別区に住んでいる可能性が高い。
- 炭疽菌入り手紙は米国の研究所または契約研究所で作られ、犯人自身が作ったかあるいは1969年にニクソン大統領が終わらせた生物兵器プログラムで作った残り物である。（1972年以降に兵器化された乾燥炭疽菌は、生物兵器協定の違反となる。）
- 犯人は炭疽菌入り手紙で誰かを殺そうとしたのでは無く、恐怖を煽り、生物兵器による戦争に注目を集めようとしたのだろう。9/11はたまたまその絶好の機会となった。メディアを攻撃の対象に加えたのは、一般市民に生物兵器の脅威を確実に伝える役にとつと犯人が考えたためだろう。
- 想像ではあるが米国政府が敵に対し報復処置を取るとか、犯人が関係するプログラムへの認識を高め、資金を獲得すると言った期待があったのではないだろうか。
- ダッシュル及びリーヒー上院議員をなぜ攻撃対象に選んだのか、は謎を解く糸口になるだろう。ワシントンタイムズは2001年12月5日に次のように報じている。

ブッシュ政権は生物兵器禁止遵守の監視協定を破棄し、生物兵器協議会を強化するという3代続いた政権の方針を覆した。この行いは同盟国が、米国の一方的軍縮論への批判を強めることになった。

結論として、テロリストが政府の後押し無しに、生物兵器による攻撃を行うことは出来ず、まして単独の犯人が攻撃を行うことは出来なかつただろう。

---

i Compilation of Mailed Anthrax evidence :

<https://www.ph.ucla.edu/epi/bioter/compilationofanthraxevidence.html>

